

西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛 市政・市議会報告



ホームページもご覧ください。

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



「お役所仕事」がもたらす結果。

縦割り、他人事の政策推進、遅い意思決定、場当たりの行政運営、事業のやりっぱなし。私はこれらを「お役所仕事」と呼び、21年間、市に対して改革に向けた具体策を提案し続けてきました。しかし市は、都合の悪い提案は無視し、市役所のぬるま湯を守り続け、課題は山積する一方です。そして近年、子供は激減し、人口も減少し始め、深刻な財政悪化までも招いてしまいました。将来世代への負の遺産を減らせるよう、住民による政策選択の重要性をお伝えし続けます。

- 掲載内容**
- 財政構造改善
 - 市立中央図書館の阪神西宮駅北側への移転
 - 防災対策の再点検
 - 元横浜市長 中田宏 参議院議員と対談
 - 市立中央病院の閉鎖に伴う課題

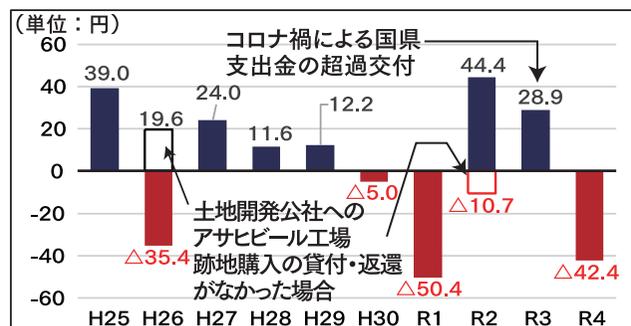
市は、市議会での提案や指摘を無視し続け、人件費の上昇や放漫財政を放置した結果、行政サービスの質の低下を招く結果に。

令和6年度の西宮市一般会計予算は、2032億円（前年度より約80億円増加）となり、これまでの貯金を約81億円取り崩す予定となっています。グラフの通り、平成30年度以降、赤字基調に陥っていることが昨年末に報告され、令和6年度から5年間、年間40億円以上の収支改善を目指して財政構造改善に取り組むことになりました。具体的には、**正規職員数を約160名、非正規職員を約60名削減する「定員管理計画」**が示され、これまでの提案が受け入れられた形となりましたが、

- 単なる収入増加を目的とした公共施設の使用料の見直し（主に値上げ）や、
 - 施設の開館時間や窓口業務の短縮
- など、行政サービスの質を下げるだけの取組みも含まれています。また、この取組みだけでは、**市長公約**である「**こども医療費の完全無償化**」に必要な財源

を確保することができないことも、3月議会の代表質問で明らかになりました。そこで、20年前に危機的な財政難に陥った経験を活かさずに具体的な数値目標のない「行政経営改革」でお茶を濁している間に、**再び財政状況の悪化を招いた市に対して、これまで提案していた「財政規律を守る仕組み」を改めて提案**しました。引き続き、財政改革に重点的に取り組めます。

■ 実質単年度収支（決算）の推移



政策提言

令和6年3月議会では会派を代表して、市長の施政方針に対して代表質問をし、①財政運営、②子育て・教育環境、③防災対策、④まちづくりのビジョン、⑤協働の取り組み、⑥保健医療の6項目を取り上げて、市と議論しました。

突如、阪神西宮駅北側への中央図書館移転案浮上。場当たりの箱モノの整備ではなく、公共図書館のあり方の議論が不可欠。

■まずは公共図書館のあり方を検討するべき

昨年秋に、民間企業より、西宮市との公民連携事業として、阪神西宮駅北側の区画整理(大街区化)と再開発事業の提案を受け、基本協定を締結したとの報告がありました。

その提案には、市立中央図書館をこの場所に移転整備する内容が含まれ、市が道路用地の提供のみならず、図書館の整備に数十億円規模の公費を投入する内容となっています。現在の中央図書館は、建築後約40年しか経過しておらず、**他にも再整備が必要な公共施設が山積する中で、跡地の使い方も議論できていません。**質問に対して市は、予算措置等のスケジュールなど具体的なことは今秋に示すとあいまいな回答に終始しました。

私は、「**今後の市立図書館の全体のあり方**」に関する議論もなく、新たに整備する図書館についてだけ慌てて検討を始めるという場当たりの市政運営を問題視しています。

■運営も民間に委ねて利便性の高い施設を!

「箱モノ」を整備する際には、より多くの市民が利用できる施設とすることは当然のこととして、**維持管理や運営の効率性も考慮して検討する必要があります**と考えています。そこで、

●**公共図書館のニーズに効率的に対応するために維持管理や運営も民間企業に委ねるよう提案**しました。**市は民間委託も含めて効率的な運営について検討すると回答**しました。引き続き動向を注視するとともに議論を続けます。



指定管理者(民間企業)が運営する和歌山市民図書館は、年中無休で9時から21時までの開所を実現。

防災対策の再点検と地域での訓練の活性化を!

令和6年3月議会の代表質問では、

- 地域ごとに策定される「地区防災計画」の一層の策定促進に向けた支援
- 西宮市による液体ミルクの備蓄の拡充
- 地域で行われる避難訓練等での防災マップの活用や民間企業・団体と締結している各種防災協定(令和6年3月現在162件)の活用に向けた情報共有の推進を求め、市から前向きな回答を得ました。形だけの防災訓練では、参加者の増加も見込めないと考えています。**より実効性の高い備えができるよう、各地域から寄せられる提案や要望に対して、柔軟に対応するよう求めました。**

■詳しくは私のYouTubeチャンネルをご覧ください!

この項目に関する詳細は、私のホームページやYouTubeチャンネルでも発信しています。是非ともご覧ください。



中田 宏参議院議員が主催する「地方制度研究会」に参加。

現地視察や国の政策を研修する機会をいただいています。

昨秋、美浜発電所やJA越前たけふの経営改革、国内最高となるレベル4の自動運転について現地を視察させていただきました。そのほか、こども家庭庁や総務省等、市の政策に関連する国の予算や施策に関する勉強会にも参加しています。

地方議会においても、国の政策動向を知り、広い視野を持って政策提案や政策判断をする重要性を感じています。今後も、国の動向についても情報収集に努め、国政とも連携して取り組めるよう努力します。



元横浜市長中田 宏参議院議員に「地方政治の役割と重要性」についてお話を伺いました。対談の一部となりますがご紹介します。

● **田中**：中田議員は全国比例区選出の参議院議員としてご活躍ですが、西宮市との関わりをお聞かせください。

● **中田議員**：私は、松下政経塾での研修テーマを「ごみ問題」に設定しました。そして、35年前になりますが、ごみの資源化率が高かった西宮市のごみ処理場でも約1か月間働かせてもらい、「もやさないごみ」の収集や仕分けに携わった経験があります。地方自治体の過酷な現場で得た経験や知見が、私の政治活動の原点になっています。

● **田中**：西宮市の現場でも働いておられたんですね！20年前に西宮市は「環境学習都市宣言」をしていますが、ごみの資源化率は低迷し、現在は全国平均を下回っていますので取組みの検証が必要だと感じています。

さて、中田議員は改革派の市長という印象ですが、横浜市長になって取り組まれたことをお聞かせください。

● **中田議員**：市民の自主的な取組み、善意を引き出す仕組みが必要と考えていました。そこで、横浜市長に就任してすぐにごみの分別・ごみ減量政策に取り組みました。それまでの横浜市では、ごみの分別を一切していませんでしたので、まさに大改革でした。様々な抵抗もありましたが、就任後3年で10種類の分別を実現し、初年度から目標値（ごみを30%減量）を上回る結果を生みました。自分たちのための取組みとはいえ、ごみの分別は、住民にとって大きな負担になりますので、理解を得るために説明に力を入れ、広報活動も徹底しました。



● **田中**：横浜市には先進的な政策が多く、環境政策のみではなく、市役所改革や学校施設の地域開放、保育所政策等について何度も視察させてもらい、西宮市で政策を提言しています。私は、1つの自治体の政策が、他の自治体にも影響を与えることができれば、日本全体がよくなると感じています。そこで、私も参加させていただいている「地方制度研究会」の目的をお聞かせください。

● **中田議員**：市民が選挙で選ぶ市長や議員が、市役所に対して、明確かつ的確な目標・ミッションを示せば、多くの課題が解決できることを地方政治の現場で確信しました。また、全国一律の基準が弊害となっている現実にも直面しました。そこで、地方制度研究会を立ち上げて、200名を超える地方議員の皆さんと情報交換し、私自身も研鑽を積む場になっています。国と地方が連携して、社会保障や経済振興、安全保障など様々な課題に取り組み、これからの日本、国民を守りたいと考えています。

● **田中**：今回はここまでですが、また、地域経済のことや防災、少子化対策についてもお話を伺いたいと思っています。このたびは、誠にありがとうございました！

市立中央病院の閉鎖にあたっての課題を議論

■今のままでは到底「統合」とは言えません

3月議会の代表質問では、市立中央病院の閉鎖に伴う課題について市に質問しました。市長は5年前に「県立西宮病院と市立中央病院の統合再編基本協定」を兵庫県と交わし、現在事業が進められています。整備費が約560億円に膨れ上がり、市の負担金も表のとおり、統合を検討した当時の見込みを大きく上回っています。そして、統合新病院は県立であるにもかかわらず、**市は新病院開院後も運営費の一部を負担(年間約4.6億円と試算)し続ける**ことになっています。一方で、市立中央病院は令和8年度に閉院する予定ですが、**多額の借金返済のほか、職員の退職金や建物の解体費用など閉院に伴う経費(約40億円)は、市が単独で負担しなければなりません。**さらに、今回の代表質問の回答では、**現在の市立中央病院の職員が、県立の統合新病院に転職し、現在の給与よりも下がった場合、その差額までも市が負担する可能性を示唆**しました。これでは統合とは言えず、容認できません。県に対して強い姿勢で協議に臨むよう求めました。

■市立中央病院の跡地活用案も二転三転

また、市立中央病院の跡地活用については、地元住民の意向を反映して民間病院を誘致し、民間の高齢者施設と保育所等子育て支援施設を誘致する予定でした。しかし、市の財政状況が悪化したことにより、**もっと財源を確保できる活用案へと見直されることになりました。場当たりの市政運営の弊害が露呈**したと言えます。今後、市議会での審査を通じて、市民の理解が得られる判断ができるよう動向を注視してまいります。

市の負担金	協定締結前 (平成30年12月)	現在確定分 (令和6年2月)
用地取得費	約33億円	約39.7億円
設計・工事費	約31.1億円	約77.3億円
医療機器購入費	約6.3億円	約0.3億円
整備費合計	約70.4億円	約117.3億円

この記事に対するご質問・ご意見は、nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

【お知らせ】

令和5年11月に「政新会」を解散し、自由民主党公認議員3名と無所属議員2名の5名で保守系会派「啓誠会」を結成して活動することとなりました。

約束のかたち:「市政・市議会報告」の発行の継続

このチラシは、広報のみではなく、市民の声を伺うきっかけとなる広聴のためのチラシでもあり、選挙前だけではなく定期的に作成してきました。このチラシを見て、掲載内容以外のことも含めてご意見を寄せてもらっています。すぐには実現できない内容も多いですが、だからこそ、今すぐ着手しなければならないこともあります。諦めずにご意見や情報をお寄せ下さい。

発行責任者

田中正剛 たなかまさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議会議員事務所に4年間勤務した後、平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(当時27歳)、現在6期目、民生常任委員会委員
政党:自由民主党(西宮支部長)

■これまでに就任した市議会での主な役職
常任委員会委員長(5回)、西宮市監査委員、阪神水道企業団監査委員、西宮市議会副議長、第88代西宮市議会議長(当時41歳)

profile



■71号:人口減少がもたらす影響
令和4年度一般会計決算、水道管の老朽化対策、人口減少対策、小・中一貫西宮浜義務教育学校、介護保険事業の持続性について掲載。



LINE
公式アカウント

← こちらのQRコードをスマートフォンのLINEアプリで読み取って、是非ともご登録下さい。